

東京大空襲の話聞き 信仰と行動を考える

WCRRP日本委青年部会



終戦70年の節目に犠牲者を思い、平和と慰霊の祈りを捧げた

世界宗教者平和会議(WCRRP)日本委員会

青年部会は3月29日、東京都墨田区の立正佼成会墨田教会で青年公開セミナーを開いた。終戦70年の節目の年に当たり、東京大空襲を経験した語り部から話を聞くとともに、犠牲者に祈りを捧げ、宗教青年の今後の信仰と行動の在り方を考えた。

当時小学2年生だった東京大空襲・戦災資料センターの語り部・江角恵子さん(78)が、10万人もの命を奪った1945年3月10日の惨禍の経験を語った。「一夜にして地

獄絵図となり、翌朝、橋のたもとにはたぐさんの死体があった。生きながらに焼かれた人を見て、戦争の恐ろしさを実感した」として、平和の大切さと70年という歳月の重さを訴えた。

参加者には、生の体験を聞くのが初めてという人も多く、「平和の尊さをたゆまず次の世代に伝えることが大事」「当時の人々に思いをはせながら、今を生きる我々もなぜ他者を傷つけることがあるのかを考えたい」といった意見が交わされた。

関東大震災と東京大空襲の犠牲者の遺骨を納める東京都慰霊堂(同区)に移動し、墨田宗教者・信徒平和会が主催する「慰霊と平和への祈りの集い」に参加。神道、仏

教、イスラームといった部会を代表して石川清哲(捧げた)宗派別の祈りでは、青年幹事長が心からの祈りを

(佐藤慎太郎)